

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の結果について（概要）

宇都宮市教育委員会

## 1 教科に関する調査の結果について

### <全体的な状況>

概ね、各学年、各教科において国や県の平均正答率を上回っている。

特に、全国学力・学習状況調査では、小6国語・算数、中3国語、とちぎっ子学習状況調査では、小5理科、中2社会・数学・理科・英語において、国や県の平均正答率を1.5ポイント以上上回るなど、良好な状況が見られる。

一方で、とちぎっ子学習状況調査では、小4国語・算数、中2国語において、県の平均正答率を若干下回っている。

### <小学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
全国学力・学習状況調査 小6	国語	68.7	67.2	1.5
	算数	64.4	62.5	1.9
とちぎっ子学習状況調査 小5	国語	63.8	62.9	0.9
	算数	57.7	57.3	0.4
	理科	67.2	65.7	1.5
とちぎっ子学習状況調査 小4	国語	64.6	65.2	△0.6
	算数	67.0	67.2	△0.2
	理科	66.8	65.6	1.2

### <中学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
全国学力・学習状況調査 中3	国語	71.3	69.8	1.5
	数学	51.5	51.0	0.5
	英語	46.6	45.6	1.0
とちぎっ子学習状況調査 中2	国語	61.1	61.4	△0.3
	社会	57.7	55.9	1.8
	数学	54.8	53.2	1.6
	理科	51.2	49.0	2.2
	英語	56.9	54.2	2.7

(\*) 小4・小5・中2においては、県の平均正答率との差を示しています。

小6・中3においては、全国の平均正答率との差を示しています。

＜小学校（小4，小5，小6） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞

国語	<p>○ 「読むこと」の領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ0.4P，1.6P，小6では全国平均を2.1P上回り，良好な状況が見られる。中でも，文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける設問において，小6では全国平均を3.0P上回っており，内容を正確に捉えることについて定着が図られている。</p> <p>● 「書くこと」の領域において，小4，小5，小6とも，段落ごとに必要な情報を書くこと，資料から読み取ったことを基に自分の考えを明確にして書くことに課題が見られる。</p>
算数	<p>○ 「数と計算」の領域の平均正答率が，小5では県平均を0.5P，小6では全国平均を1.1P上回り，良好な状況が見られる。中でも，筆算の仕方を説明した図を基に計算の仕方を選ぶ設問において，小6では全国平均を3.8P上回っており，除法の筆算の理解について定着が図られている。</p> <p>● 「データの活用」領域において，小4では，グラフの目盛りの付け方や読み方の知識・技能の定着を図った上で，複数のグラフの違いを考察することに課題が見られる。</p>
理科	<p>○ 「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ1.1P，2.5P上回り，良好な状況が見られる。中でも，電池のつなぎ方の異なる回路を比較し，電流が大きい回路を選択する設問において，小5では県平均を4.0P上回っており，観察，実験したことから考察することについて定着が図られている。</p>

＜中学校（中2，中3） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞

国語	<p>○ 「読むこと」の領域の平均正答率が，中2では県平均を1.1P，中3では全国平均を1.6P上回り，良好な状況が見られる。中でも，叙述を基に内容を捉える設問において，中2では県平均を1.9P，中3では全国平均を2.1P上回っており，文章の構造や内容を把握することについて定着が図られている。</p> <p>● 「書くこと」の領域において，中2では，自分の主張が明確に伝わるように，自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認し，根拠を明確にして書くことに課題が見られる。</p>
社会	<p>○ 「地理的分野」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.0P上回り，良好な状況が見られる。中でも，ヨーロッパ州に見られる特徴的な自然条件に関する設問において，県平均を3.5P上回っており，地図や写真などを活用しながら，地形や気候など地域の特徴を捉えることについて定着が図られている。</p>
数学	<p>○ 「図形」の領域の平均正答率が，中2では県平均を1.6P，中3では全国平均を1.1P上回り，良好な状況が見られる。中でも，空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることについて，正しい記述を選ぶ設問において，中3では全国平均を1.9P上回っており，空間における平面の理解について良好な状況が見られる。</p> <p>● 「関数」の領域において，中3では，事象を数学的に解釈し，グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。</p>
理科	<p>○ 「生命」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.6P上回り，良好な状況が見られる。中でも，植物の体の部分に着目し，分類を選択する設問において，県平均を4.9P上回っており，既存の知識を生かしながら，観察結果から考察することについて定着が図られている。</p>
英語	<p>○ 「聞くこと」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.3P，中3では全国平均を1.8P上回り，良好な状況が見られる。中でも，英語を聞き，内容を適切に表している絵を選択する設問において，中2では県平均を2.8P，中3では全国平均を4.4P上回っており，会話を聞き，情報を正確に聞き取ることに定着が図られている。</p>

\* 「ポイント」を「P」と表記する。

## 2 児童生徒質問紙（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市児童生徒の肯定的な回答の割合を示しています。  
( ) 内の数値は、小6・中3においては全国平均との差、小4・小5・中2においては県平均との差を示しています。

### ○ 児童生徒は、主体的によりよい学級づくりに参画している。

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている」(全国学力)

小6 84.8% (+7.6P) 中3 83.2% (+5.3P)

「学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」(全国学力)

小6 80.8% (+5.1P) 中3 77.1% (+5.5P)

### ○ 教員や家族に自分のよさを認められていると感じており、自己肯定感が高い。

「先生は、学習のことについてほめてくれる」(とちぎっ子)

小4 86.8% (+1.3P) 小5 88.7% (+1.4P) 中2 79.9% (+0.5P)

「家の人には、ほめてもらいたいことをほめてくれる」(とちぎっ子)

小4 86.0% (+2.2P) 小5 87.2% (+1.5P) 中2 80.0% (+2.0P)

「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」(全国学力)

小6 95.2% (+5.4P) 中3 92.3% (+5.0P)

### ○ 地域や社会についての関心をもっている児童生徒の割合が高い。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」(全国学力)

小6 80.9% (+4.1P) 中3 68.2% (+4.3P)

「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」(とちぎっ子)

小4 70.8% (+1.8P) 小5 72.2% (+0.8P) 中2 73.6% (+2.5P)

### ○ 夢や目標について考えている児童生徒の割合は、国や県との差において、小・中学校とも学年が上がるにしたがって高くなる。

「将来の夢や目標をもっている」(全国学力・とちぎっ子)

小4 89.4% (+0.8P) 小5 89.0% (+1.6P) 小6 84.6% (+3.1P)

中2 69.5% (-0.9P) 中3 70.4% (+4.1P)

「家の人と将来のことについて話すことがある」(とちぎっ子)

小4 67.7% (+1.9P) 小5 69.7% (+4.3P) 中2 71.2% (+4.4P)

### ● 自分の考えを文章にまとめて書く学習に、苦手意識がある。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない」(とちぎっ子)

小4 34.7% (-2.5P) 小5 37.1% (-2.6P) 中2 33.8% (-2.1P)

### 3 学校質問紙（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市立学校の肯定的な回答の割合を示しています。  
( )内の数値は、「全国学力・学習状況調査」の質問については全国平均との差、  
「とちぎっ子学習状況調査」の質問については県平均との差を示しています。

#### ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められている。

「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」

(全国学力)

小学校 92.7% (+7.1P)                      中学校 80.0% (+1.4P)

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」(とちぎっ子)

小学校 89.9% (+0.6P)                      中学校 92.0% (+4.7P)

#### ○ 小・中学校が連携して行う取組が、全国と比べてよく行われている。

「近隣等の中(小)学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」(全国学力)

小学校 88.4% (+27.8P)                      中学校 92.0% (+25.2P)

#### ○ 保護者や地域と連携・協働する取組が、よく行われている。

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」(全国学力)

小学校 95.7% (+9.6P)                      中学校 84.0% (+4.7P)

#### ● 学力調査問題の有効な活用が求められる。

「学力調査後、調査対象学年の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 85.5% (-6.3P)                      中学校 48.0% (-24.6P)

「学力調査後、調査対象学年の1学年下の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、習得状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 78.3% (-2.2P)                      中学校 40.0% (-22.4P)

## 4 児童生徒質問紙（アンケート）と教科の正答率のクロス集計結果について

### － 学力との相関が高い質問についての考察 －

本市におけるアンケートの結果のうち、正答率が高い児童生徒の方が、正答率が低い児童生徒と比べて肯定的に回答している傾向が見られた項目について分析し、学力に影響すると考えられる児童生徒の取組をまとめました。

正答率が高い児童生徒は、次のことによく取り組んでいる傾向が見られる。

- ・ 疑問に思ったことを追究しようとする意欲をもち、主体的に学習に取り組んでいる。
- ・ 話し合う活動を通して考えを深めたり、自分の考えを工夫して伝えたりしている。
- ・ ノートに学習の目標やまとめを書いたり、学習したことを振り返ったりしている。
- ・ 自分で計画を立てて家庭学習に取り組み、休日の学習時間の確保もできている。
- ・ 地域や社会について関心をもち、課題の発見や解決に向けて考えたりしている。

## 5 全体のまとめ

### <まとめ>

#### 教科に関する調査結果について

概ね、各学年、各教科において全国及び県の平均を上回っており、良好な結果が見られた。各教科等における基礎的事項の理解や、資料から必要な情報を読み取り、内容を把握する技能など、基本的な知識・技能について定着しつつあると考えられる。

#### 質問紙調査（アンケート）について

書くことへの意識や調査問題の活用において、肯定的な回答割合が県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、学習指導要領の具現化に向けた授業改善の取組、小・中学校や地域との連携に係る取組を中心に全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

### <良好な結果の要因と考えられること>

- ・ 各学校において、課題設定を工夫したり、課題解決に向けた話し合い活動を積極的に取り入れたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められている。
- ・ 児童生徒が集中して授業に取り組むことができているとともに、各学校において児童生徒を認め励ます指導が浸透し、児童生徒は自分のよさに自信をもって学習や生活に臨むことができている。
- ・ 児童生徒の学習の様子を把握し、個に応じた指導を充実させたり、自主的な学習が促進されるよう課題を工夫しながら家庭学習の習慣化に向けた取組を継続したりするなど、基本的な知識・技能の着実な定着に向けた取組が推進されている。
- ・ 地域学校園において、小・中学校が連携した取組が定着しており、教育課程に関する共通の取組や小中での合同研修の機会を確保するなど、小・中学校で系統性のある指導の実践ができている。

### <今回の結果から見えてきた課題>

- ・ 資料から読み取った情報を基に、解釈したり、考察したりすること、思考したことを目的や意図に沿って表現することなどに課題が見られるため、各教科等の特質に応じて言語活動を充実させ、言語能力の育成を図るなど、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・ 自分の考えを文章にまとめて書くことについて課題が見られるため、段階的に書く活動を取り入れるなど、自分の考えが伝わるような文章を書く力が身に付くよう指導方法の工夫が必要である。

6 今後の取組

〈市教委〉

〈学校〉

市の強みとして更に伸ばしたいところ

- 本市児童生徒のほとんどが「教職員や家族に自分のよさを認められている」と感じていることを本市学校教育の大きな成果と捉え、児童生徒の自信や自己肯定感を一層育むため、「宮っ子心の教育表彰」など、認め励ます教育を引き続き推進する。
- 児童生徒一人一人が基礎・基本を確実に身に付けることができるよう、基礎期からのきめ細かな学習指導を推進するとともに、A1型個別学習ドリルの活用などにより家庭学習の習慣化を推進する。また、単元や学期ごとに復習する機会の設定や学年末の「宮っ子まとめの学習月間」の取組を促進する。

認め励ます教育の推進

基礎・基本の確実な定着

- 日々の学習や生活における児童生徒への積極的な声掛けや、機会を捉えた称賛を通して、児童生徒のよさや努力を認め励ますとともに、児童生徒同士が互いのよさに気づき、称賛したり励ましたりする活動を引き続き推進する。
- 「宇都宮モデル」を活用し、児童生徒が意欲的に学習に取り組みながら基礎・基本を身に付けることができるよう、きめ細かな指導や学習評価を行う。特に、基礎期における基礎・基本の指導について、各校の実態に応じて工夫・改善を図る。また、1人1台端末を効果的に活用し、家庭学習の習慣化に向けた取組を工夫する。

来年までに改善したいところ

- 市定着度調査を含む3つの調査の一体的な分析により、本市の学力向上に係る取組の改善に向けてPDCAサイクルを回すとともに、各学校における分析や指導計画改善の助言を行う。また、各校において定着しつつある調査問題の活用を促進する具体的な指導、助言を行う。
- 自分の考えをまとめ、書く力を育成するため、各教科の特質に応じた言語活動を充実させることや系統的な指導を実施することを踏まえながら、自分の考えをまとめ書く力を育成する指導のポイントについて、センター研修や学校訪問の機会を捉えて、指導助言を行う。また、「宮っ子学びのデザインチーム」による実践の一環として、主体的に学習に取り組む態度と書くことの関連について考察し、好事例を周知する。

学力調査の活用

書く力の育成

- 国、県、市の結果を分析して児童生徒の状況や学習指導上の成果と課題を明らかにし、校内で共有を図り、チームで課題解決を図る。また、調査問題を、引き続き積極的に授業の教材等として活用するとともに、補充問題やMEXCBT（文科省オンライン学習システム）を利用して学力の向上を図る。
- 国語科では、児童生徒が考えを書くとともに、書いた文章を推敲する力を育成するよう取り組むなど、適切に評価し、系統的に指導するため、年間指導計画の改善・充実を図る。また、全教科等で児童生徒の興味・関心を生かした課題を設定したり、発問や問いかけを工夫したりするなど、児童生徒が主体的に書く活動に取り組む機会を設定するとともに、思考、表現する場面や振り返りの場面における書く機会の充実を図る。